

## あさお希望のシナリオプロジェクト 第7回検討会 (2020/12/6)

### 全体発表摘録

#### テーマ 「地域活動に参加する人を増やすためには？」

##### 【1班】

- ・1班の学生が参加するきっかけとしては、友達に誘われてやサークルの友達に誘われて、あとはもともとボランティアに興味があった人が調べてたどり着いたところがあったという話があった。
- ・地域の活動に参加していない人の理由は大きく3つ挙げられて、まず情報が少ない、活動していることを知らないことと、地域活動のイメージが堅い、入りづらいとか、若い世代のイメージが少ないということから、参加していないという理由があって、もう1つは参加するきっかけがない、機会や目的がないという以上の3つが大まかに出た意見。
- ・増やすためにはどうすればいいかというと、まず情報発信の方法としては、やっていることの理念を崩さない程度に、先入観例えば堅いとか入りづらいとかの先入観を払拭することが大事という結論になって、インスタグラムやT i k T o k、ツイッター等、若い人が使うツールで情報発信をするといいということになった。
- ・チラシも効果的だと思っているが、チラシを配るときに、例えば高校とか大学とかで配ると許可を取らなくてはいけませんが、学校や施設が受け入れてくれない環境が結構あって、そこをもう少し受け入れてほしいという結論になった。
- ・2個目の地域活動のイメージと、参加する機会とか目的の解決方法についてはまとめて話させてもらおうと、活動の楽しさを知ってもらうことが大事だと思っていて、楽しいとかやりがいがある土台にあって、その先の延長に人助けや地域貢献があるというところが大きくて、大学生だと学生がラストで、その中での優先順位として大学とかサークルとかアルバイトとかある中で、参加してもらうためにはその中の優先順位を高くしなくてはいけません。そのためには価値提示が大事で、楽しいとかやりがいがあるとか、それこそ就活で使えるなどの価値提示が大事という結論になった。
- ・他には、やっぱり参加してくれた1回目のときに、例えば1回目の参加だけど責任感を感じる仕事に就かせてやりがいを知ってもらうなども大事だという話があった。
- ・あとは受け入れる側の姿勢として、せっかく来てくれたからフレンドリーにとか、失敗してもいいよっていう環境を作ってあげることが大事という話になった。

##### (質問)

##### ●メンバー

- ・学生の方っていうのは、ボランティアに割ける時間ってどれくらいあるのかなって、素朴な質問です。

→大学生だと、今大学がコロナで行けなくなってしまって、それで結構時間がある人もいるが、普段だと大学行ってサークルやってボランティアもとなると、ちょっと時間が少ないと思う。

#### ●メンバー

- ・インスタとかT i k T o kとかにどういう風に表現すれば、学生は見ますか。  
→インスタグラムとかだと、堅いイメージがあるので、その堅いイメージを払拭するために、例えば大学生が多いところだったら大学生を出してみたり、参加しやすい環境や雰囲気を見せるのが大事だと思う。

#### メンバー

- ・映える…？  
→映えるまではいかなくても、まあ映える…。

### 【2班】

- ・皆さんにきっかけをお聞きしたところ、今まで活動をやっていなかった人が10人中5人、在勤者が2人、活動している人が3人という形で、半分はこのプロジェクトをきっかけに活動を始めた方達で、これから何かをやっていこうという方が多かった。
- ・この中で感じたのは、私は中学校からここに来て、今は30年くらい住んでいるが、大学の時に来たとか、数年前に来たとか、移り住んできた方が多いのかなというイメージは感じた。ただ、あんまり世代間的にもつながっていないのかなという印象はあった。
- ・なぜ参加しにくいのかなという話があったが、私はこんな話をした。お子さんがいる方だとよくある話になるが、PTAの活動が好きな方と、苦手な方に分けられると思う。押し付け合ったり、ポイント制になったり。実際に入ってみると楽しいこともあるが、そういうところがある。
- ・たとえば保育園だと、社福の保育園はだいたいPTAがあるが、株式会社系の保育園はない。どっちに行っている方も、それで良かった、と言われることが多いので、それはどっちでもよいのかなと思うが、なんとなくPTAが保育園・幼稚園の頃から小学校・中学校まで足かせのようになっている。でも中学校3年生では、進路の情報がわかるという噂が流れて引き受ける方も多らしい。そういう意味で、大変なことだとちょっと、という部分と、自分にとって助かることがあれば、という部分があるのかなと感じたというお話をした。
- ・その他、「メリットを感じられない」とか、「時間的にも地域への意識が向けられない」とか、でも誘われたら行くかもしれないな、とかそんなお話が出ていた。
- ・参加する人を増やすためにはどうしたらいいかというお話については、自分が「価値の提案」と「困りごとの解決」というのがひとつあるのではないかという話をした。困っていることがあれば、どこかに話を聞きに行ったりすると思うので、困っていることの解決ができるのであれば参加すると思う。また、皆さん携帯電話の新機種が出たら買い替えていませんか。本当に必要かどうかわからないくても、「良いですよ」と言われるとついつい好きになってしまうところがある。そうした「価値の提案」をされると良いと思うから、それに乗っかっていく。
- ・その2つのことが、市民活動の中でもあればいいのかなと思う。ではなぜ市民活動に人が参加

しないのかと言えば、よく「参加してください参加してください」と言うけれど、それは団体の人が来てほしいだけで、前にいる人が来たいわけじゃない。だから来ない。団体の方が自分のことを押し付けてしまっている。押し付けられると引いてしまう。でもそれが楽しかったり、自分の問題が解決できたり、その価値いいねということになっていくと、もしかしたら入っていく。

- ・じゃあ、そこに箱が必要なのか、そこに組織が必要なのか、なくても大丈夫じゃないか、そんな話も出た。
- ・あと、自然に参加できる雰囲気。市民活動って、普通は自然発生的に生まれるもの、という話もでた。あとは情報発信といった話がでた。
- ・また、私がお話させていただいたことだが、学生さんに対して、現役で働いている方が就職活動を教えていけば、わざわざ都心で合同説明会に行かなくても、この辺の居酒屋で、ということもできるかもしれない。そんなお話もした。

(質疑応答なし)

### 【3班】

- ・活動に参加したきっかけは、次世代のためにとか、介護をきっかけにこういう地域活動を考えたとか、あとは多世代交流、地域を知るためにこういったプロジェクトに参加しているというのもあったし、PTA活動をされる中でこういう活動に関心をもたれているという方もいた。
- ・我々の第3班は40代・50代がメインだと思うが、けっこう皆さん何かしらの活動に参加されている方が多いなということで、ほぼ参加していないというのは自分が唯一の存在かなと思いついていた。
- ・参加していない方の理由ということで、見返りが無いとか何かしらメリットがないのではという意見があったし、どう貢献できるか見えてこない、実際参加してもどう貢献するか分からないということが地域活動に参加しづらい踏み出せないひとつなのかなと。
- ・「知らない」「関心がない」というところは、「知らない」というのは例えばホームページとか広報してもそれがちゃんと伝わっているかどうかそこが理由なのではないかなと。あと「関心がない」というのも会社勤めの方々は仕事が中心になっているということでなかなかそちらのほうに時間をさけるところがない、もう一步踏み出せないというところがあるのではないかと。
- ・ホームページを見てももらえないということで、若い方々についてはもうホームページを見るのではなくて、他のインスタとかそういったほうが実際には見られているということで、そういったところが伝えるギャップができていないかと。
- ・地域のつながりが希薄化しているというのもあるし、自分が参加したい取組がわかりづらい、このへんは広報のどう伝えていくのかという話になるのではと思う。あと発信がないと知ることができない、負担が先だって参加したくないというところもあったようである。
- ・それに対して参加するにはどうしたらいいのかということについては、何かしらの見返りとしてのグッズなどあるのではないかと思うし、あと「モノ」でなくても「コト」参加することで楽し

いとか何か得るものがあるといいのではないかという話もあった。あと実際に顔の見える関係までできれば、より参加しやすくなるのでは、実際に知り合いの方とか直接声をかけていただくとかするとより参加してみようという感じがあるのではないのでしょうか。一緒にやりましょうと声をかけたりとか。SNSの活用ということでさきほどのツイッターやフェイスブックの波及が大事でないか。取組の見える化、細やかな広報が必要ではないか。

- ・地道な取組というのが大事というところで、一例としてインターンシップのようなそういった地道な取組というのも一つある。今、地域社会の構造変化というところで、かつて地域活動というのは女性が支えた面があったが、今は共働きでなかなか時間がある方が少なくなっていると。そういった構造変化を踏まえた取組、しくみづくりが大事かなと。
- ・企業を巻き込んで進めていくということも必要でないかなと思った。みなさん麻生区に対して愛情を持ってらっしゃる方が多いというところがあるので、人のために何かしたいという方は多いのではないかということで、そういった方をどう巻き込んでいくのかというのが大事かなと思う。「楽しさ」「やりがい」が重要というのはまさに活動に対するモチベーションになっているというところ。あとは潜在的な層の発掘をしていくというところである。

(質疑応答なし)

#### 【4班】

- ・グループ4は60歳以上ということで、①自己紹介での地域活動については、会社員の時には、現実として中々、地域活動に踏み込めなかったという意見があった。
- ・また、ケアマネージャーやひきこもりの会、町内会、地域のボランティア活動をやっているなどの意見があった。
- ・みなさんの意見として集約して言うと、手詰まり感がある、この一言につきるところがありました。
- ・次に、②地域活動に参加しない人の理由については、現役、会社員の時は、地域のことを知らない、知る機会がないなどの意見があった。
- ・それから、関心がない、興味がない、困っていることがない、あるいは若い世代は時間がないんじゃないのだろうか、大変忙しい日常生活を送っている方が多いのではないかと。
- ・高齢者では、孫の世話であったりとか、親の介護であったりとか、それまた忙しいのではなどの意見があった。
- ・参加しない理由として一言でいえば、関心がない、困っていることがないという意見が多かった。
- ・次に、参加しない理由を解決するため参加を増やすためにはこれからどうするかについてですが、アクティブシニア、現役でやっているシニアのみなさんから、あまり声がなかった、意見がなかったんで。やっぱり、それなりの手詰まり感を感じているのではないかと私は思っている。
- ・その中で、テーマが多くなった、散らばりすぎている、そのようなところで、広報が行き渡っていないのではないのかという意見があった。

- ・そのためには粘り強く広報活動をしなればいけないということ、二つ目は、大きな鍋が必要ではないかということ。料理で小さな鍋だと参加は限られてしまうのだけれども、大きな鍋だと多くの人が参加する必要があるし、それぞれの役目が生まれてくるという話があった。
- ・具体的どうしたらいいかということ、難しいが、粘り強く広報活動を続ける、ピラをつくる、例えばスーパーの掲示板を利用して広報活動を行うなどの意見もあった。
- ・高齢者の方も若い方も意外とデジタル社会になっているが、デジタルは信用していないところもあり、田舎へいくとJAや、スーパーに掲示板があって、これが結構有効利用している気がする。

(質疑応答なし)

## 【5班】

- ・私どもシニア層は、今まで拘束されていた会社時間が多くて長かったのではないかという愚痴めいた意見も出ていた。でも、皆さん麻生区をよくしようという心意気を持って、各自、心と体を動かしながら日夜頑張っている。
- ・落書き消しをやったり、フロンターレのボランティアを25年やって、川崎フロンターレ優勝したので、皆さん心からお祝いしていただきたいと思う。
- ・虹ヶ丘に住んでいる女性の方は自分も体を動かしながらボランティアをして楽しんでいるという意見もあった。皆さん各自シニア層なので、会社人間を長いことしていたので、皆さんそれなりのノウハウを持っているし、つながりができてきたということの喜びを一番感じているようだ。
- ・麻生区にはやまゆりという大きな有力な媒体がある。これを利用して我々シニア層はこれからも歩いていったらいいのではないかと。拘束されるのは嫌。今まで40年も50年も会社で拘束されてきたので。なので、ボランティア活動をしていきたいということ。
- ・若いママさん方が非常に能力を持っているのではないかという意見があった。そういうママさん達をやまゆりなり、自分の住んでいるところのグループに引き込んできたらどうかということ。
- ・有償ボランティアの話も出てきた。数年前に福田市長が有償ボランティアをするということで、話があったが、交通費が出るボランティアもあるし、フロンターレは弁当が出る。やまゆりは対価として若干の交通費。市民館ではお茶が出るような、非常に前向きになってきているような活動もあるようだ。
- ・丁稚奉公ではないけど、自分達で自らつくりだしていこうと。とにかく麻生区が非常に好きだ、川崎都民だったけど、今は完全に麻生区の区民になって、皆さんと一緒に行動していきたいという、まだまだバイタリティーに富んだシニア層です。

(質疑応答なし)

## 【6班：オンライン】

- ・6グループは皆さんのテーマとは違って、「どうしたらオンラインで人や団体をつなげられるか」というテーマでお話した。自己紹介の中でも様々な意見が出て、オンラインのつながりや活用のきっかけ、など入口からお聞きした。
- ・皆さん、結構 ZOOM は活用されているようだが、中にはインスタのライブ配信などや SNS で情報発信をされている方もいた。そうした中で、オンラインの通信環境が整っていないとか、自分は光通信で良くなったが相手がまだ整っていないとか、お互いの環境が違うことでチグハグするという経験もあるようで、そういうところは改善する必要があると思った。
- ・「つながる目的」についてのお話が出て、ある程度目的が見えないと具体的な取組に繋がらないということもあったが、ウィズコロナが続くのであればオンラインでの繋がりは重要だということで、不慣れな人にもどんどんオンラインの活用を進めていくような仕組みづくりが必要という意見やアイデアが出た。
- ・実際このプロジェクトがきっかけで、今回2回目ですという方もいらして、操作が難しいとか、慣れが必要だと実感されたメンバーもいた。
- ・オンラインのメリットということで、場所を選ばないとか移動時間も節約できるなどがあげられましたが、シニア世代が取り残されるのが心配だという意見もあった。
- ・やまゆりで、シニア対象にオンラインを実際に使ってみる講座が2月にあるということで、こうした取組にみなさんサポートしていただいて、オンライン活用を推進したいねというお話があった。
- ・お祭りイベントがコロナで中止になったので、オンラインで開催したという話もあった。
- ・「何のためにつながるのか？」というところでは、困った時にスムーズにつながり合える関係をつくるために、日頃からちょっとしたつながりがあることが必要という意見があった。
- ・オンライン自体を、高齢者は毛嫌いする方が多いということで、これに対しては、やまゆりとか、地域包括支援センターなど、もともとなじみのある所がきっかけを作っていただくのが良いという意見もあった。
- ・また、オンライン単独だと参加しづらい側面があるので、リアルとオンラインの両立、ハイブリッド型で、例えばオンラインでやってますよ、というのを街中で大画面に映すとか、世の中にオンラインでも色々なことをやっていることを PR する形でイベントを仕掛けていく、というアイデアも頂いた。
  
- ・ここから議題というかテーマに沿っての意見をいただいた。
- ・オンライン上でのつながりをどう増やしていくかについて、ここでは、課題について意見があがって、オンラインツールがたくさんありすぎるために、何を使えば、どの世代に伝わるのが難しいとか、誰に向けて発信するかを定めてツールを決める必要があるとか、定期的続ける必要がある、という意見があった。
- ・次に、オンラインと対面での違い、メリット・デメリットについて意見を聞いたところ、オンラ

インだと一方通行には有効だが、デメリットとしてはフェス等の空間共有には不向きで、対面だと雰囲気味わえるところオンラインだと盛り上がり感が無い、わくわくする意識の共有が出来ないといった意見があった。

- また、オンラインだと自分から情報を求めてアクセスしに行く必要があり、街中でふっとした時、寄り道したときに偶然知るなどの機会が少ないので、最初はオンラインとリアルと同時に開催して、次第にオンラインにシフトしていくと良いのでは、という意見もあった。
- 最後に、地域活動にオンラインをもっと活用するにはどうしたらよいか、ということについてお聞きしたところ、今、いろんな各会社がガラケーからスマホに変えようということでもいろいろ取組みを行っていて、高齢者にもスマホを売ろうとして講座などを開いているといった現状があるが、あるメンバーからの話だと、本当に高齢者に伝わるような教え方がまだまだできていないという状況のようである。不親切だなというイメージがあるようで、まだ高齢者にちゃんと伝わるような親切な教え方にはなっていないのかなと感じたので、そういうところも取り組む課題だという意見があった。
- 家にこもりがちな高齢者こそ、今繋がって欲しい方たちで、状態が悪くなってからでは遅いので、もし可能なら、高齢者が簡単にアクセスできるインターフェースの開発など、どこかがやってくれたらいいという意見もあった。
- そうした中で、ひとつのアイデアが出て、お試しオンライン体験みたいなもので、例えばランチタイムに誰でも参加できるような ZOOM 空間があって、責任者が一人いて、誰でも来ていいですよ、というイメージ。お試しなので接続に失敗してもいいし、アクセスできたら、よく来てくれましたねとお話ししたり、そういう ZOOM に慣れるための誰でも出入りできる空間があったらいい、そんな取組みが出来たらよいという意見があった。
- こうした取組みも、企業などでも進められているようだが、高齢者は詐欺とか警戒している中なので、行政の後押しがあると安心できていいなという意見があった。
- また、高齢者だけでなく、子育て世代に、見守り保育や悩み共有などでの活用があるといいなという意見があった。

(以上)